

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：32643

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：16KK0087

研究課題名（和文）多様な働き方に即した産業衛生制度再構築のための国際比較研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Research for reconstructing occupational safety and health and social security system for non-standard workers(Fostering Joint International Research)

研究代表者

井上 まり子 (Inoue, Mariko)

帝京大学・大学院 公衆衛生学研究科・准教授

研究者番号：20508048

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,100,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、多様な働き方に即した産業衛生制度を構築するために必要な要素と制度を検討するため、取組が進んでいる欧州諸国の産業衛生制度を築く法律や政策、実際の産業衛生活動を調査し国際比較を行うことであった。特に雇用形態多様化に即した政策を有する欧州諸国を対象に、法制度や政策、産業衛生制度の各国達成状況の整理、具体的活動の情報収集を行った。また、国際共同研究の一環として雇用形態多様化と健康との関連についてのシステムティックレビューなどを行った。期間中には技術革新やグローバル化に伴う社会変化と新しい働き方に関する世界の動向について情報収集する追加された成果もあった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的な意義は、多様な働き方を取り巻く産業衛生制度について体系的な情報収集・整理ができたことである。また、多様な働き方の労働者について健康との関連について過去の研究を整理してレビューを行うことができた。技術革新に伴う新しい働き方の存在の出現とその労働者を守る世界の動向について、国際機関の担当者を通じて最新の情報を得たことも成果の一つである。

研究の社会的意義としては、現在過渡期にある日本の働き方改革と目指す社会にあわせた産業衛生制度の在り方を検討できたことである。どのような働き方でも安全で健康に働き、生活できる社会制度づくりを再設計する際に活用できることが本研究の社会的意義である。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to investigate and make an international comparison of laws, policies, and actual industrial hygiene activities in European countries with advanced systems to examine the elements and systems needed to establish industrial hygiene systems for diverse work styles. Especially for European countries that have policies adapted to the diversification of employment patterns, we collected data on laws and policies, summarized the status of achievement of industrial hygiene systems in each country in response to the diversification of employment patterns, and collected information on specific activities.

Besides, a systematic review of the association between the diversification of employment patterns and health was conducted as part of an international joint research project. There were additional outcomes to gather information on global trends in social change and new ways of working due to technological innovation and globalization.

研究分野：社会疫学、国際保健学

キーワード：健康の社会的決定要因 社会疫学 産業保健 社会保障 多様な働き方 雇用形態多様化 Industry 4.0 Society 5.0

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

日本の非正規雇用労働者(非正規雇用者)の増加は著しく、現在雇用されて働く労働者の37%が非正規雇用であり、かつ女性では56%にのぼっている(労働力調査2016)。世界全体でも不安定な身分で働く非正規雇用者の課題があり、国際連合の持続可能な開発目標の1つとしても解決が望まれている。学術的には公衆衛生の疫学研究により正規雇用と非正規雇用の比較研究から非正規雇用者の健康度の低さと健康診断へのアクセスが制限されていることなどが明らかになっており改善が望まれる。日本でも昨今の健康経営実現や非正規雇用が多い女性の活躍推進なども考えると、いかなる雇用形態であっても産業衛生分野で労働者の安全と健康を守ることでもある。しかし、日本では未だ旧来型で終身雇用や大企業を主体とした産業衛生活動を基盤に設計されており、現状の雇用形態多様化に即した産業衛生制度の再構築が求められている。

## 2. 研究の目的

現在日本で進む多様な働き方に即した産業衛生制度を構築するために必要な要素と制度を検討するため、先行する欧州諸国の産業衛生制度を築く法律や政策、実際の産業衛生活動を調査し国際比較を行うことである。特に実務や行政関係者のインタビュー調査と現場訪問によって政策決定過程と実施状況に注目し、今後日本での産業衛生制度再構築の提案を行う。

## 3. 研究の方法

研究は特に雇用形態多様化に即した政策を有する欧州諸国を対象に

1. EU 全体の動向
2. 雇用形態多様化に即した社会制度を有するオランダ、デンマーク等北欧諸国
3. フランス・英国・ドイツ等の人口規模が大きい欧州諸国

について以下の4つの側面から分析を行う。

- (1) 法制度や政策に関する資料収集
- (2) 雇用形態多様化に即した産業衛生制度の各国達成状況の整理
- (3) インタビュー調査による産業衛生制度と具体的活動の情報収集と政策決定過程の把握
- (4) 具体的な産業衛生活動の観察による事例分析

今回の国際共同研究での研究は、特に産業衛生制度という実務的な側面が含まれるため、実務と学術的両側面から協力を得られる国際機関を共同研究先に選んだ。

## 方法

### (1) 法制度や政策に関する資料収集

各国制度などはインターネットを通じて各国政府ホームページなどで入手可能である。しかし、今回は雇用形態多様化が進みかつ制度整備も充実させている欧州諸国を対象にしており、特に産業衛生に特化した内容などについては英語の書類が必ずしも存在しない。また、英語版が内容要約になっていることも多い。したがって、ILO 内部で直接担当部門に依頼して情報を収集する。

### (2) 雇用形態多様化に即した産業衛生制度の各国達成状況

ILO で把握されている各国のディーセントワーク(働きがいがある人間らしい仕事)に関する取り組み評価について、特に不安定な就労を行う非正規雇用者を含めた産業衛生制度と活動について情報を収集して整理する。特に安全衛生教育、労働災害対策、メンタルヘルス対策、健康管理、産前産後の健康、育児への配慮、社会保障(健康保険)について把握する。

### (3) 各国の関係者に対するインタビュー調査

現状把握のために雇用形態多様化に即した産業衛生制度と活動を行う各国の行政組織等担当部門に尋ねる必要がある。今回の研究ではその法律や政策決定過程に着目するため、実施に至る過程を尋ねるインタビューによる情報収集を要する。この部分については、共同研究先となったILOの担当者から情報を収集することで各国に依頼しなくても資料を集めることができた。

#### 4. 研究成果

本研究の成果としては、関連する論文として6編、16の学会報告を行い、書籍1つ(1章担当)に携わった。本報告までに出版に至っていない論文が数編あり、今後も出版にいたるところまで投稿と修正などを行う。

##### (1) 産業衛生制度比較

各国の産業衛生に関する法律や政策、特に非正規雇用労働者に対する内容について情報を収集し、EU全体と各国で比較を行った。安全衛生教育、労働災害対策、メンタルヘルス対策、健康管理、産前産後の健康、育児への配慮、社会保障(健康保険)についての比較から、主には、雇用形態多様化が進む国では、従来の非正規雇用であるパートタイム労働などについては雇用形態を問わずに各種制度が整えられている傾向にあるものの、需要に応じて雇用を調整するような、さらに新しい働き方への配慮に課題が残っていた。

昨今の技術革新とグローバル化の影響により、インターネット上で仕事が完結して労働者の姿が見えない働き方がある。たとえば、デジタルエコノミー、プラットフォームエコノミーとして知られる場での仕事を請け負う労働形態など、これまでになかった働き方については、世界でもまだ法制度や対策づくりが成長途上である。新しい働き方のルールづくりに関しては、同時並行で国際会議などの情報も収集し、新しい制度づくりへの政策過程を追跡することができた。

##### (2) 不安定な雇用と健康に関するシステムティックレビュー

研究先のILOとの国際共同研究のひとつとして、システムティックレビューを行った。特に不安定な雇用と健康についてのシステムティックレビューは約10年出版されておらず、健康をテーマに扱う論文も、保健医療領域から経済や社会学などの領域にも広がっていた。そこで、検索にはPubMed以外にもPsychINFO、SocINDEX、EconLitなどの検索エンジンからも包括的に文献を検索した。今回は、観察研究の中でもコホート研究や症例対照研究に限定して分析した。

主な結果としては、不安定な雇用に関する論文は、約10年前には欧州地域と一部のアジア地域に集中して報告されていた。その傾向は今も変わらないが、研究対象になる国が広がり、かつコホート研究などによる分析が増加していた。不安定な雇用については、労働災害、各種死亡、疾病罹患、生活習慣、医療へのアクセス、出産・育児に関する指標が主たるアウトカムとして研究されていた。現在高齢化が進む中で、10年前のレビュー論文と比較しても、高齢者の就労や高齢の祖父母による育児支援とその子どもらの就労に関する論文があるなど、時代背景の推移が理解できた。

##### (3) 国際共同研究基盤づくり

国際共同研究の基盤づくりとしては、ILOとの研究者どうしの連携体制を構築し、今後も投稿中の論文を含めて継続して成果を公表して国際共同研究を継続する。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井上まり子	4. 巻 23
2. 論文標題 特集 働き方改革. 非正規雇用労働者と新しい働き方からみた期待と課題.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康開発	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 錦谷まりこ、井上まり子、鶴ヶ野しのぶ	4. 巻 73
2. 論文標題 学術研究からの少子化対策 日本衛生学会からの提言に向けて 少子化社会における非正規雇用と結婚、妊娠・出産、育児	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 215-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nomura Kyoko, Karita Kanae, Araki Atsuko, Nishioka Emiko, Muto Go, Iwai-Shimada Miyuki, Nishikitani Mariko, Inoue Mariko, et al.	4. 巻 24
2. 論文標題 For making a declaration of countermeasures against the falling birth rate from the Japanese Society for Hygiene: summary of discussion in the working group on academic research strategy against an aging society with low birth rate	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12199-019-0768-x	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nishikitani M, Nakao M, Tsurugano S, Inoure M, Yano E.	4. 巻 11
2. 論文標題 Relationship between menstruation status and work conditions in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biopsychosocial Medicine	6. 最初と最後の頁 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-017-0112-x. eCollection 2017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上まり子	4. 巻 83(3)
2. 論文標題 健康格差の是正—公衆衛生倫理の視点で考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 184-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaoka K, Suzuki M, Inoue M, Ishikawa H, Tango T.	4. 巻 20
2. 論文標題 Spatial clustering of suicide mortality and associated community characteristics in Kanagawa prefecture, Japan, 2011-2017	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-020-2479-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 錦谷まりこ、井上まり子、鶴ヶ野しのぶ、矢野栄二
2. 発表標題 不安定就労世帯における子供の健康と幸福度
3. 学会等名 第89回日本衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上まり子、錦谷まりこ、鶴ヶ野しのぶ、矢野栄二
2. 発表標題 若年女性の雇用形態変化・退職と心理的ストレスとの関連
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上まり子, 錦谷まりこ, 鶴ヶ野しのぶ, 矢野栄二
2. 発表標題 若年労働者の雇用形態変化と心理的ストレスとの関連: 10年間のコホート研究から
3. 学会等名 第91回日本産業衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 少子高齢化社会日本における学術研究からの問題提起 非正規雇用と女性の労働から日本の少子高齢化を考える
3. 学会等名 第88回日本衛生学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 世界における非正規雇用労働の動向
3. 学会等名 第91回日本産業衛生学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Inoue
2. 発表標題 Advancing Women in Public Health: The Japanese Experience
3. 学会等名 Advancing women in public health & medicine symposium, Harvard University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 非正規雇用と女性の労働から日本の少子高齢化を考える
3. 学会等名 第88回日本衛生学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 錦谷まりこ、有吉美恵、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二
2. 発表標題 非正規雇用の健康状態と職業特徴：国民生活基礎調査より
3. 学会等名 第90回日本産業衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二
2. 発表標題 大学非正規教員の健康～非常勤講師健康調査から～
3. 学会等名 第90回日本産業衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 International Labour Organization (ILO) における非正規雇用に関する対策の動向
3. 学会等名 日本産業衛生学会 第14回 非正規雇用研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 非正規雇用労働者の安全衛生 - 現状、グッドプラクティス、今後の実践 - . 世界における非正規雇用労働と新しい働き方 - ILOの取組を例に - .
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴ヶ野しのぶ, 錦谷まりこ, 井上まり子, 矢野栄二
2. 発表標題 非正規雇用労働者の安全衛生 - 現状、グッドプラクティス、今後の実践 - . 世界における非正規雇用労働と新しい働き方 - ILOの取組を例に - .
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上まり子
2. 発表標題 デジタルエコノミーと新しい働き方と健康に関する文献レビュー
3. 学会等名 第16回日本産業衛生学会非正規雇用研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Mariko Inoue, Yoshiharu Fukuda, Eric Brunner	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 336
3. 書名 Health in Japan Social Epidemiology of Japan since the 1964 Tokyo Olympics, Chapter 7 Work and health in a diverse and disparate labour market	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	アマラ ウマ ラニ  (Rani Amara Uma)	国際労働機関・Research Division・Senior Economist	